

大地の再生を準備する

産地名	所在	復興状況																																				
茨城	鈴木牧場 (ヨーグルト・チーズ)	石岡市 ○4/29に3圃場の牧草と土壌の放射能検査提出。ゴールデンウィークをはさんでようやく5/11検査結果が報告される。 ○5/9、3つの圃場の牧草を刈り取り、ロールで密封。処理待ち。 ○この検査結果を踏まえて、牧草と土壌の再生計画を協議する予定。 【鈴木牧場、牧草と土壌の検査結果】																																				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>牧草/土壌</th> <th>圃場</th> <th>ヨウ素131</th> <th>セシウム134</th> <th>セシウム137</th> <th>セシウム合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">牧草 イタリアライグラス</td> <td>A牧場前</td> <td>40.5</td> <td>175.0</td> <td>205.0</td> <td>380.0</td> </tr> <tr> <td>B圃場</td> <td>不検出</td> <td>33.7</td> <td>47.4</td> <td>81.1</td> </tr> <tr> <td>C圃場</td> <td>34.1</td> <td>154.0</td> <td>146.0</td> <td>300.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">土壌 (深さ15cm)</td> <td>A牧場前</td> <td>12.0</td> <td>50.3</td> <td>60.9</td> <td>111.2</td> </tr> <tr> <td>B圃場</td> <td>57.4</td> <td>370.0</td> <td>385.0</td> <td>755.0</td> </tr> <tr> <td>C圃場</td> <td>69.9</td> <td>434.0</td> <td>445.0</td> <td>879.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位)ベクレル/kg (検査機関)東京ニュークリアサービス つくば開発センター (測定器)ゲルマニウム半導体測定装置 SEIKO EG&G社製 GEM20P4型 (測定時間)1800秒 (測定方法)科学技術庁放射能測定マニュアルに準拠</p> <p>※国の基準: 「牧草」でセシウム300ベクレル(経産牛および初回交配以降の牛)それ以外の育成牛用は5,000ベクレル 「土壌」は稲の作付け基準で5000ベクレル。稲以外の基準、まだなし ※自家で牧草を作っている酪農家は、石岡市内で3件のみ。自分で「土作り・草作り」をしていた酪農家こそが被害を受ける結果になっている。</p>	牧草/土壌	圃場	ヨウ素131	セシウム134	セシウム137	セシウム合計	牧草 イタリアライグラス	A牧場前	40.5	175.0	205.0	380.0	B圃場	不検出	33.7	47.4	81.1	C圃場	34.1	154.0	146.0	300.0	土壌 (深さ15cm)	A牧場前	12.0	50.3	60.9	111.2	B圃場	57.4	370.0	385.0	755.0	C圃場	69.9	434.0
牧草/土壌	圃場	ヨウ素131	セシウム134	セシウム137	セシウム合計																																	
牧草 イタリアライグラス	A牧場前	40.5	175.0	205.0	380.0																																	
	B圃場	不検出	33.7	47.4	81.1																																	
	C圃場	34.1	154.0	146.0	300.0																																	
土壌 (深さ15cm)	A牧場前	12.0	50.3	60.9	111.2																																	
	B圃場	57.4	370.0	385.0	755.0																																	
	C圃場	69.9	434.0	445.0	879.0																																	
県	お米の生産者	●4/28、めぐみちゃんと荒井農園の水田土壌を採取検査へ。 国のセシウム基準を下回っていることからとりあえず田植えはGOLした。 【おこめの生産者の水田土壌の放射線の検査結果】																																				
	めぐみちゃん (常総市)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>水田圃場</th> <th>ヨウ素131</th> <th>セシウム134</th> <th>セシウム137</th> <th>セシウム合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常総市めぐみちゃん水田土壌(深さ15cm)</td> <td>40.5</td> <td>175.0</td> <td>205.0</td> <td>380.0</td> </tr> <tr> <td>印西市荒井農園の水田土壌(深さ15cm)</td> <td>不検出</td> <td>33.7</td> <td>47.4</td> <td>81.1</td> </tr> <tr> <td>水戸市鯉淵学園</td> <td colspan="4">(検査依頼中)</td> </tr> </tbody> </table>	水田圃場	ヨウ素131	セシウム134	セシウム137	セシウム合計	常総市めぐみちゃん水田土壌(深さ15cm)	40.5	175.0	205.0	380.0	印西市荒井農園の水田土壌(深さ15cm)	不検出	33.7	47.4	81.1	水戸市鯉淵学園	(検査依頼中)																			
	水田圃場	ヨウ素131	セシウム134	セシウム137	セシウム合計																																	
常総市めぐみちゃん水田土壌(深さ15cm)	40.5	175.0	205.0	380.0																																		
印西市荒井農園の水田土壌(深さ15cm)	不検出	33.7	47.4	81.1																																		
水戸市鯉淵学園	(検査依頼中)																																					
荒井農園 (印西市)	条件 同上																																					
		※今後、稲の茎の検査、玄米の検査に進みます。																																				
	有機の野菜セット生産者	●5/1、一斉に土壌採取。検査機関に。まだ結果が出ていません。 今週の「別チラシ」で野菜セットの生産者のお手紙を紹介。ぜひ応援を!																																				
	田中農園(やさとの仲間)	「畑は現状維持を考えています。放射能問題の悪の根源、原発を地震大国日本からなくしたい。みんなで力をあわせて食品の安全に対する脅威に立ち向かいましょう」																																				
	あゆみの会	「現在、独自の分析をすすめています。いまだ福島原発の問題は終息していません。今後の対応はその結果によって大きく変わります。粘土鉱物等による土壌改良や、有用微生物の投入についてはこれまでも普通に行ってきた土質向上の対応ですので、今後も継続していきます。おもしろ半分が悪い結果だけを伝えるメディア、言い放しで何ら対応が進まない政府には怒りがこみあげます。自分たちの独自の判断で責任ある措置をとって、身を守ることが重要となっています。どのような方法で改善し、もとの状態へと少しでも戻すか、最大の課題にして取り組みます。」																																				

福島 山木屋グリーン牧場 東電福島第一原発事故 「計画的避難」に向けての苦難 「牛たちを生かしてあげたい」

- 栃木に預かってもらった出産予定の初妊牛が
周囲からの差別に会い「出戻り」!
- 無為無策の国と県
- 仔牛は白河高原牧場へ
- 残される搾乳牛たち

本当なら、この季節
広大な牧場をゆったり歩き、
若葉をはんでいるはずなのに・・・。
今、牧場にこの姿はない。



悲しみと絶望を乗り越え、共に生きる希望を。

被災・被曝・汚染を共に引き受け、これから長期のいのちと自然の再建・復興を支える。

産地災害復興支援基金 (1口 500円) No. 467

○注文用紙のこの番号に「1」と記入すると500円、「2」記入で1,000円となります。月次の請求で自動振替させていただきます。

【東日本大震災・福島原発被害一産地状況(第6報)】

産地名	所在	復興状況
岩手県	三陸町 綾里	<p>5月11日、会長が義援金のお礼に来協。常総の組合員さんからの気持ちを形に残るものに使わせて頂きたいとのことで、「常総生協組合員から」を刻んだリフトを買わせて頂くとのことでした。</p> <p>○コタニ岩手工場 「水道は4月中旬に回復しましたが、まだ電気が来ない状態。建物内部の修復に向けて大工さんが入っており、常総生協さんが持って来てくれた発電機3台が非常に助かっています。 敷地の周りの瓦礫の撤去も工場の周り5mくらいまで片づいてきたので、5月中旬に足場を組んで外回りの修復に入れる予定。使えなくなった機械は新たに発注して復旧の準備に入りました。 7月から重茂漁協からの原料の納入のメドがつかまりましたので、それまでに工場の冷蔵庫の復旧が第一条件となるため、冷蔵庫の復旧を急いでいます」 ※岩手県内のわかめのカット工場が残ったのがコタニさんの工場のみのため、地域の自立復興にはとても大きな役割を果たします。</p> <p>○漁協の状況 会長と社長はこの間、原料仕入先の重茂漁協、越喜来漁協、田老漁協に足を運び、漁協との原料確保や今後について話し合っています。各漁協とも津波の被害は大きく、2011年春に収穫する予定だったワカメはほぼ全滅。 しかし、重茂漁協の3つある工場のうち津波に流されなかった1工場に残っていた2010年産のわかめ原料を分けてもらえることになりました。重茂漁協は三陸海岸の漁協の中でも動きが早く、被害を受けた漁師の船に対しては組合所有として新たに500隻の船を発注し、漁師に負担をかけない方向にするそうです。 越喜来漁協も同じ方向に今動いている。 田老町漁協は津波の被害が大きく、漁協の関係者も亡くなられている方もいて、まだ具体的な方向性が見えてないとのこと。</p> <p>●今年わかめの作付について 保存してあったわかめの種(孢子)はみな流されてしまったので、6月に天然のめかぶから種をとり、8月くらいからロープに種まきをして、11月頃に海に播き付ける予定。そうして年明けから3月にかけて新物が採れるが、収穫量は現行の3割くらいではないかとのこと。</p> <p>●わかめの供給について 「岩手のわかめをお届けする」ことをモットーにしてきましたが、このような産地の状況ゆえ、産地の生産が回復するまでの間は、組合員の皆さまにご理解を頂いて、重茂産わかめと、自分の目で確かめた韓国産のわかめを交互に企画させて頂き、この一年を乗り切りたいとの提案を頂きました。「きっと組合員も了解し、応援してくれるはずです」と答えました。</p> <p>●企画の予定! 今週6/1回、来週6/2回の別チラシで工場内で残った「糸くきわかめ」と「カットわかめ」を工場の様子と共に2回に渡って紹介しています。商品カタログ本紙では7/1回より震災の被害の合わなかった製品を少しづつ紹介していくことにしました。</p> <p>●6/11総代会・交流会には出席予定がつきそうとのこと。少し販売もできそう。組合員のみなさん、ぜひ総代会・交流会へ。</p>
	岩手県	岩泉町



コタニの会長さん



だいぶ片づきました



今週6月1回
別チラシで
復興応援企画
第1弾
「くきわかめ」
被害の状況も
報告

産地名	所在	復興状況	
宮城県	高橋徳治商店 (練り製品)	石巻市	<p>○常総生協+茨城有機農研の瓦礫撤去・機械洗浄・在庫すりみ廃棄・ヘドロ除去の支援を引き継いで、関西よつば連絡会のみなさんが工場内ヘドロ除去の復旧支援に入ってくれました。ヘドロ除去の見通しがつきそうで、再度奥までの機械洗浄をしたいので、常総+有機の「水汲みポンプ+水槽タンク」の支援の要請があり、準備。 ●6/11総代会・交流会には予定をつけて組合員にお礼を言いたい。</p>
福島県	山木屋牧場 (ノンホモ牛乳)	川俣町	<p>○無為無策の国・県 「計画的避難区域」に指定されたものの、国も県も何ら牛の具体策を示してくれない。補償があるのかないのかさ示されない。5/16から乳幼児の避難が始まる。地域で何度も会議を持っていて、農水省の役人も会議に出るので「牛はどうしたらいいか?」「生活や仕事は?」と質問をするが、「上の方に申し伝えます」だけで、何らの回答もない状態。町も「あとはもうお任せする」とされて困り果てている。「殺処分」とも言わない。国は、指示や命令とすると補償しなければならなくなるので、自分達で判断させるように追い込んでいくかのようだ。 川俣町で避難地域に指定された地区には6件の酪農家がいるが、「牛飼いは牛とともに最後まで残ってしまうかな」と話している。とにかく、一人一人で国や県に言ってもかけあってももらえないので、県酪連の支援を受けて酪農家で団結して対処しようということにはなっている。</p> <p>○仔牛は白河高原牧場に 仔牛20頭近くは、県内の白河高原牧場で預かってもらえることになり、まず9頭をお願いできた。</p> <p>○栃木で預かってもらった出産予定の牛2頭が「出戻り」 5月と6月に出産予定の初妊牛を4月に栃木の酪農家に預かってもらったところ、周囲や上部団体から、「福島からの牛を預かって、もしあんたところで放射能汚染乳が出たら、栃木の酪農みんなに迷惑がかかる。そうになったらどうするのか」と預かった酪農家に圧力がかかり、結局「出戻って」来ることに。牛も出産は故郷のこの牧場でしかできない。県外で預かってもらうことは今は容易ではない。</p> <p>○搾乳牛は・・・ 搾乳牛は、週1回の放射能検査を3回行って、すべて基準値以下なら移動許可されるということで、今日5/12より一頭毎の牛乳の検査が始まった。移動してもよいとなっても、なかなか行き場所は見つからない。なんとか生かしてあげたいが、5月中に移動先がみつからなければ、それ以降はもうだめなようだ。牛舎を閉め切っているため、牛舎内は風も入らず高温となり、もう牛も限界で、ストレスですですに10頭が亡くなった。もう耐えられない。自分たちの体調も悪く、今日病院に行った。</p> <p>○組合員のみなさんありがとう。 「常総生協組合員さんからのたくさんのメッセージ、ご心配の声欄を頂き、さらにたくさんの支援金を頂き、何とお礼を言ってよいか。4月に頂いた大量の水も本当に重宝しています。また、先日の朝日新聞への組合員さんの投書も、埼玉の嫁の実家から「牧場にキャンプに行った消費者からの手紙が載ってるよ!」と知らされました。 6月11日の総代会には、組合員のみなさんにお礼を言いに伺いたいのですが、その時まで牛といっしょにいる場合は出られないかもしれない。息子と私二人で牛を見てやらないと・・・。牛とは離れられない。認知症のひいばあちゃんを週単位で預けているのでこちらを離れられない。仕事もなくなってしまったら、来年は息子が生協さんにお世話になるかもしれない。その時はどうかよろしくお願ひしたい!」(お母さん)</p>
	茨城県	久慈浜丸小漁協	日立市
茨城県	塩屋	ひたちなか市	<p>○漁がまだ休止しているため収入が断たれている状況。震災で被災した新築したばかりの加工場の修繕を開始。まずは加工から再起する方向で進んでいる。</p>
	大湫沼漁協	茨城町	<p>○しじみの放射能検査の結果、基準値以下のため漁の再開を決定。7月上旬から活しじみの供給を再開予定。</p>



本当なら外の若葉を噛む季節なのに



夕方、一列に並んで、ゆっくり牛舎に搾乳してもらいに戻ってくる牛たち



高橋さん親子 生協柿崎(左)